

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900326		
法人名	医療法人 村山内科		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	徳島県三好市池田町サラダ1792番地1		
自己評価作成日	令和4年12月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和5年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に併設にしている為、24時間安心して生活が出来、医療・介護・福祉が提供出来る事で、終末期においても最後まで、その人らしく意思を尊重して看取りが出来ます。また駅前にある為、地域との交流も図りやすいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、商店街に位置し、近隣の散歩の際、近隣住民と自然と交流できる環境にある。近隣には、同一法人の運営する協力医療機関があり、定期的な医師・看護師の訪問や急変時等、24時間の連携体制を整備している。重度化した場合や終末期の支援体制も整え、利用者や家族等の意向にそって、身体面・精神面を含めたチームケアに努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、併設の他サービス事業所のスペースで、トレーニングマシンを活用したり、利用者の馴染みの場所へ出かけた職員がライブ配信を行ったり、気分転換を図っている。また、リモートを活用して、運営推進会議を開催することで、県外の家族等も会議に出席できる環境を整えている。SNSを利用し、家族等と利用者の日ごろの状況を細やかに共有している。管理者は、さまざまな手法を取り入れ、利用者・職員が無理なく、楽しみながら過ごすことができるよう支援に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ZOOMでの全体ミーティングや申し送りで唱和し、理解して実践に取り組んでいる。	事業所では、地域密着型サービス事業の意義や役割について、職員間で検討・作成した理念を掲げている。理念は、事業所の玄関に掲示するとともに、毎朝のミーティングで唱和し、職員間での共有化を図っている。毎年、理念に基づいた目標を掲げ、実践に繋げている。パンフレットや運営推進会議等で、地域や家族等へ向けて理念やサービスのあり方を伝える工夫を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事も少しずつ開催され始めたが人が集まるところには行っていない。近くの喫茶店などは連絡いつでも行けるようにしている。婦人会の方から頂いたお花がとてもきれいだったので、利用者様と一緒に写真を撮った。	事業所は、地域の自治会に加入し、利用者が地域のなかで生活するための連携体制の構築に努めている。感染症(コロナ等)の流行下においても、地域の喫茶店と連携を図り、貸し切りでの誕生日会の開催について計画するなど、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の人々には出来ていないが、家族へ連絡した時に認知症の理解・支援の方法のお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの状況により、グループホーム、デイ、ホールなどで開催し同時にZOOM配信もしている。コロナが増えた場合はZOOM配信のみしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、併設事業所のスペースやリモートを活用するなど、開催方法を工夫している。毎回、議題を設け、地域の薬剤師や歯科衛生士等の出席を得ている。事業所の活動や地域の困りごと等について話し合い、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、市の担当窓口へ実績報告を持参し、情報交換をしている。運営推進会議に出席できない時は、ZOOMで参加してもらったり、資料を送付したりして、意見をもらって、議事録にまとめ、議事録を送付している。	管理者は、毎月、市担当窓口を訪問し、事業所の報告や困難事例の相談等を行っている。感染症発生時の対応等について助言を得るなど、課題解決に向けた協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を実施し、具体的な内容について検討できる体制をとっている。	事業所では、毎月の部会や3か月に1回の身体拘束廃止委員会で、身体拘束に関する話し合いを行っている。日ごろの支援のなかでの気づきやグレーゾーンについても話し合い、利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するための意識づけを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会や部会、ミーティング時には、声かけや言葉遣い等について話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域の情報誌を見たりして掲載されている情報等をスタッフへ伝えている。事業所内で、勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容について、ゆっくり読んで理解していただき、疑問がある時はその都度、尋ねてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等もできないので、家族さんや普段の利用者さんの言葉などをスタッフが聞き、記入したものを代筆した。	事業所では、日ごろの利用者との関わりのなかで、意見や要望等を聞いている。家族等からは、来訪時に意見等を聞いている。SNSを活用し、毎週、家族等へ写真を送るなど、意見を引き出すことができるよう工夫している。把握した意見等は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は業務会議などで提案し、話し合ってもらっている。	管理者は、日ごろから職員の意見や提案を聞く機会を設けるなど、職員と気軽に話ができる関係づくりに努めている。年2回、個別に話を聞く機会も設けている。出された意見や提案は、法人に提案するなどして、働きやすい環境づくりに向けて、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回面接を行い、職員の個々の評価や意見、提案等の話しができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・院外研修する場を設けキャリアパスを活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、他事業者との交流はZOOMやテレビ電話を活用し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に慣れていくのに時間がかかる為、利用者様とゆっくり話をして不安な事などを聞いたりして、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会や連絡時に困っている事がないかを聞き、またケアプランの説明等にも意見や要望などを聞き、ケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のニーズ表を作成し、優先的に必要なニーズを話し合いながら支援を進められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごす中で、信頼関係が築けるようにコミュニケーションを取り関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス流行の為、リモート面会やLINEでの写真、報告を細かく送り、家族とのコミュニケーションを密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会もしながら日常のことも写真付きで家族さんにメールしています。	事業所では、リモート面会を実施するなど、馴染みの関係継続に努めている。SNSを利用して、家族に自宅やお墓等の写真を送ってもらったり、職員が利用者の馴染みの場所に出かけ、ライブ配信を行ったりして、行きたい場所や見たい風景を楽しむことができるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が話しやすい環境を作り、お互いに声を掛けたり励ましたりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム愛 2階		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族さんがしているお店にも連絡をとり、利用させてもらえるようにする。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、日常の利用者さんの言葉を聞き意見として取り入れる。	職員は、毎日、利用者と一緒に話をしたり、作業したりするなかで、一人ひとりの思いや希望をくみ取るよう努めている。SNSを通して、家族等にも話を聞いている。聞きとった情報をもとに、職員間で話しあい、利用者の好きなことやその人らしい生活を継続することができるよう取り組んでいる。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から聞いた情報はスタッフと共有し理解するようにしている。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はできるだけリビングで過ごしていただきレクリエーションや話をしたりして活動するように支援している。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に他業種のスタッフが参加し、変化があった場合はその都度報告している。	事業所では、利用者の趣味等を大切に、より良く暮らすための介護計画を作成している。作成の際は、リモートを活用し、法人内の他職種のスタッフや利用者を取り巻く関係者と話しあっている。定期的な計画の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じた見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はわかりやすく記録できるようにしている。申し送り時にケアの方法などの話をして見直しをしている。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の写真などをLINEで送り家族さんからも写真などを送ってもらい安心できるように取り組んでいる。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントも少しずつ増えているが人が集まる場所には行っていない。公園等には出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や歯科からの診療が柔軟に出来るような体制で、早期治療が受けられるようにしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関とは、定期的な訪問診療や緊急時等、24時間対応可能な体制を整備している。家族等とは、SNSを活用し、受診状況等を共有するなど、安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換や処置の実施、継続がきちんと行えるようにスタッフへ伝達し、症状の早期治療を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他院への入退院時には情報提供を行い、家族とも連絡を取り合い、入院先で安心して治療ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事前指示書の内容を説明し、最後まで利用者様と家族様の意見を尊重するようにしている。	事業所は、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化した場合や終末期における方針について説明し、希望を確認している。本人の心身状況の変化に応じて、家族や職員、医療関係者で話し合いを行っている。また、看取りに関する勉強会等を実施し、本人や家族等の意向にそった支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	早急に対応できるように日頃より研修などを実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練の実施時に夜間の緊急連絡網の整備と避難場所、誘導方法などを確認している。	年2回、日中と夜間の火災や地震等を想定した避難訓練を行っている。災害発生時の場所ごとの初期対応について話し合い、マニュアルを作成している。地域の民生委員や自治会長に避難時の協力を依頼し、安全に避難誘導を行うための連携体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを傷つけないような声掛けやコミュニケーションができるように心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの人格や意見を尊重し、人権擁護や法令遵守に関しての話しあいを行っている。排泄や着替え、入浴支援の際には、他の利用者の目にふれないよう注意したり、同性の職員が支援したりして、プライバシーや羞恥心に配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、気持ちや考えを理解して自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に関わる時間を作り、希望に添える様にしているが、個々に聞けていないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族さんも、髪飾りや服などを送ってくださりおしゃれに協力してくださっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態も違い、介助を必要とされる方もいるので、個々に好みの物を提供する事は難しいが、食器を食べやすい物に変更したりしている。食後のお盆拭きを目標に入れている方もいる。	事業所では、炊飯や汁物の調理、盛りつけ等を行っている。日ごろから利用者に希望や意見を聞き、栄養委員会で話しあい、献立に反映している。地域の仕出し屋に地域ならではのものを頼んだり、誕生日にケーキを用意したりして、食の楽しみを工夫している。また、利用者と一緒に干し柿やだんご、ホットケーキづくりを行い、やりがいに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し、水分がきちんと摂れるようお茶以外も提供する様にしている。食べられない時は声掛けや介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを徹底している。定期的に歯科衛生士の指導を受けて情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄をチェックし、排泄パターンを把握し、適時にトイレ誘導をして、トイレでの排泄を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた支援に努めている。入居以降、トイレ誘導により、排泄の自立に繋げるなど、身体機能の向上に繋がる支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、自然排便を促すようにトイレに座ってもらっている。水分も多めに摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴を実施している。拒否がある場合は、足浴や更衣をしたり声掛けのタイミングを変えている。	事業所では、利用者の希望に応じて、週2回の入浴ができるよう支援している。イスを活用するなど、一人ひとりの心身状況にあわせて、入浴方法を工夫している。さまざまなお風呂グッズを利用したり、好みのシャンプーや石鹸を使用したりして、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の寝具等の交換や環境を整え、安心して休めるようにしている。現在は面会等が出来ない為必要になったものに関しては御家族さんに連絡し、スタッフが管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師が薬の管理をしている。スタッフ間でも投薬内容や副作用について共有し、服薬時に誤薬がないように最後まで見守りを行う様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意な物を取り入れて、編み物などしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週末、1Fのデイに行き、いつもと違う環境で過ごしていただく。コロナの状況をみながら近くの公園に散歩に行くこともあり、行けない時はスタッフが外へ出てライブ配信をして外出気分を味わってもらっている。	事業所では、感染症の状況に応じて、地域の公園へ散歩に出かけている。敷地内で日光浴を行うなど、外気にふれる機会を設けている。また、職員が利用者の行きたい場所へ出かけ、現地からライブ配信を行い、思い出話や風景を楽しむなど、外出気分を味わうことができる取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム愛 2階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい帳で金銭管理をしている。コロナ禍の為買い物支援は出来ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINEで写真を送り日常の事をメールしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備や清掃は毎日実施している。季節に合った作品を皆で作って壁に飾っている。	共用空間は、日光が差し込み、明るい。利用者と職員で作成した、季節ごとの作品を飾り、季節感や温かみを感じることができるよう工夫している。利用者の歩行の妨げにならないよう家具の配置も工夫している。パーティションを設置したり、換気や消毒を行ったりして、感染症対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで自由にテレビをみたり話ができるようにして、ゆっくり過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今年の目標であるその人らしいお部屋作りの為、好きな物を家族さんや本人さんに聞いて持ってきてもらっている。	事業所では、今年度の目標に“その人らしいお部屋づくり”を掲げている。職員は、利用者や家族等に、居室を自宅と同じように使用してもらおうと伝えている。使い慣れた家具や家族の写真等を持ち込んでもらい、居心地よく、安心して過ごすことができる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に移動が出来、共有スペースで話したり好きなことをして過ごせるようにしている。		